



▲共産党都議団によって初めて撮影・公開された地下空間の写真

この一枚の写真が日本中を震撼させた

日本共産党都議団の「豊洲」追及ヒストリー

「築地市場は現在地で再整備」—これが1990年代までの都の方針でした。ところが99年の石原都政誕生で話が一変。石原知事は2001年都議会で豊洲移転を正式に表明しました。関係者をはじめ都民の反対運動がまきおこり、豊洲移転をめぐる激しい対決が始まったのです。

第1幕 2001年～05年

石原知事の豊洲移転にキツパリ反対

共産党都議団は「築地市場移転に断固反対する会」の総決起大会(99年)への参加をはじめ、都民運動と力をあわせ「土壌汚染で問題ある豊洲移転を強行するな」と議会で何度も主張。知事の方針転換に反対しました。

その時、都議会自民党は

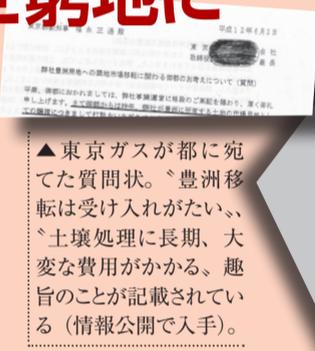
豊洲移転をあおる

豊洲に土壌汚染があることは、2001年1月に東京ガスが発表していました。それにもかかわらず「積極的に豊洲への移転を進める必要がある」(自民、01年2月)、「移転整備を促進されたい」(公明、02年11月)と移転をあおっていました。

第2幕 2006年～07年

汚染対策の欠陥追及。知事を窮地に—石原知事「再調査」を公約

都が土地購入前に東京ガスに求めた「汚染調査・対策」は欠陥だらけ。07年2月、共産党都議団はその問題点を専門家の協力もえて具体的に明らかにしました。さらに内部文書も示し知事の強引な姿勢を告発。世論も高まり直後の知事選で石原知事は、都の再調査を公約しました。



▲東京ガスが都に宛てた質問状。*豊洲移転は受け入れがたい、*土壌処理に長期、大変な費用がかかる、趣旨のことが記載されている(情報公開で入手)。

知事をかばい、着実に進めよと後押し

共産党の追及を「いたずらに都民の不安をあおる」と敵視し、石原知事をかばう質問(自民、07年2月)をしました。公明党も「着実に整備を進めていただきたい」(07年11月)と豊洲移転を要求しました。

第3幕 2008年～11年

「汚染を無害化」のウソをあばく

08年の再調査では基準値の4万3千倍のベンゼンなど深刻な汚染が次々発見されました。ところが都は10年3月に他の土壌の室内実験結果をもとに「有害物質は無害化できた」と、あたかも4万3千倍のベンゼンが環境基準以下になったように報告。そのウソをあばいたのが日本共産党都議団です。その活動は世界的に有名な科学雑誌「ネイチャー」(10年4月26日付電子版)にも紹介されました。他にも様々なデータ隠しを暴露しました。



▲肝心な部分が黒塗りの都の報告

都の「汚染対策」を絶賛

ここまで都の汚染調査・対策のウソが明らかになったのに自民党は10年10月の委員会で「豊洲新市場予定地は市場用地として十分安全・安心が確保されている」と都の対策を絶賛。公明党も「この問題をこれ以上先送りせず…豊洲新市場の整備に一刻も早く着手すべきである」と移転促進を求めました。

第4幕 2012年～現在

「盛り土なかった」衝撃の告発

東京都は数々のごまかしをしながら、それでも盛り土があれば汚染を閉じ込められるとして建設を強行します。共産党都議団は建設談合疑惑など、その後も次々と問題点を告発。そして今年9月に全国に衝撃を与えた「盛り土がなかった」ことを発表したのです。マスコミも大きく報道しました。



それでもまだ、豊洲に前向き、

今年10月の都議会で自民党は、新聞も「豊洲移転 自民なお前向き」(「朝日」10月8日付)と報道されるような姿勢に終始しました。

そして新たなステージへ決めるのは都民です

移転中止検討の署名にご協力を

東京都知事 小池百合子 様

【要請項目】 豊洲新市場予定地の徹底した安全性の調査・検証をおこない、安全・安心が保証できなければ、築地市場の豊洲への移転は中止すること

氏名	住所